

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	38	基礎看護技術Ⅰ
1年	39	基礎看護技術Ⅱ
1年	41	基礎看護技術Ⅲ
1年	42	基礎看護技術Ⅳ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa04				
			●							
科目名	基礎看護技術 I				単位認定者	竹田 理恵 二口 尚美		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護実践に必要な共通の看護技術の修得を目指す。具体的には、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術に共通する考え方について説明できる。 2. 看護における関係形成・対人技法の基本を理解して、良好なコミュニケーションを図る方法を説明できる。 3. 感染予防のための基本について理解し、演習を通して正しい方法で実施できる。 4. 医療における安全確保の技術を理解し、説明できる。 5. 看護における学習支援について説明できる。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み振り返りができる。 									
学修者への期待等	教科書の該当箇所を必ず予習すること。「看護技術とは何か」「看護とは何か」「なぜそうするのか/なぜそうしてはいけないのか(根拠)」など常に考えながら、講義・演習に臨んで欲しい。特に演習では、学内の「医療施設」に入る気持ちで臨んでほしい。さらに、確実に理解・習得して次に学ぶ技術と統合して実践できるよう心掛けてほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護技術を学ぶ(看護技術とは何か、看護技術の根拠をなすものとは何か)				教科書① 序章を読む(30分)			木下 美佐子		
2	看護におけるコミュニケーション				教科書① 第1部、教科書② 第1部2章3を読む(30分)			竹田 理恵		
3	感染防止の技術 I (基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、感染管理)				教科書② 第1部4章を読む(30分)			二口 尚美		
4	感染防止の技術の基礎(スタンダードプリコーションの実際)				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
5	感染防止の技術 II (洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い)				教科書② 第1部4章を読む(30分)			二口 尚美		
6	感染防止の技術の実際(無菌操作・感染性廃棄物の取り扱いの実際)				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
7	安全確保の技術(医療事故防止、針刺し防止策)				教科書② 第1部3章を読む(30分)			竹田 理恵		
8	看護における学習支援				教科書① 第1部1章5と6を読む(30分)			竹田 理恵		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	必要時授業内で提示する									
備考	<p>*第4回、6回の授業は実技を行う。</p> <p>*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子</p> <p>*演習はA・Bの2クラス編成で行う。(第4,6回)</p> <p>*授業内課題は、技術チェック、レポート、学習カード、確認テスト等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。</p> <p>*この科目は基礎看護学実習 II の履修要件として単位を修得していることが必須である。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %
							授業時間数		60 時間	授業内課題
				授業形態	演習	授業回数			30 回	
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。 2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。 									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとらして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム(必要時)等が必要です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	環境調整：援助の基礎知識				教科書② 第1部1章・2章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
2	環境調整：援助の方法 (ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備)							佐藤 由記子		
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク									
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク									
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク									
8	活動・休息：基本的活動の援助				教科書② 第2部7章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				教科書② 第2部8章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳		
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク									
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識				教科書② 第2部9章を読む(1時間)			竹田 理恵		
13	清潔・衣生活：援助の方法 (手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄)							竹田 理恵		
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む(30分)			竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助				教科書② 第2部9章を読む(30分)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法（入浴 シャワー浴 全身清拭）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモンストラーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清拭の実施方法」：グループワーク		
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモンストラーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施方法」：グループワーク		
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助		佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖 佐々木 重徳
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の方法（おむつによる排泄援助）		竹田 理恵
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組み提出する（30分）	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄援助」：グループワーク		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 14, 16, 19, 20, 22, 23, 26, 29, 30回） *授業内課題は、レポート、学習カード、確認テスト等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件として単位を修得していることが必須である。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06					
			●		●						
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	佐々木 重徳		試験（筆記）	50 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	試験（技術）	20 %	
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間	授業内課題
							授業回数			15 回	
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。										
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。										
学修者への 期待等	基本的なフィジカルイグザミネーションを正確・安全・安楽に実施できる基本的技術を修得してほしい。										
回	授業計画				準備学修			担当			
1	ヘルスアセスメント				教科書①「第2部」を読む（30分）			佐々木 重徳			
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				教科書①「第3部」を読む（30分）			佐々木 重徳			
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の 使い方：実技、グループワーク				教科書①「第3部」を読む（30分）、 動画視聴（10分）			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖			
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループ ワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む （30分）、動画視聴（10分）						
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定： 実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む （30分）、動画視聴（10分）						
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の 技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				教科書②「バイタルサイン」を読む （30分）、動画視聴（10分）						
7	計測の実際：グループワーク				教科書②「身体計測」を読む（30分）						
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”				教科書①「第3部」を読む（30分）、 動画視聴（10分）					佐藤 清湖	
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経 系”				教科書①「第3部」を読む（30分）、 動画視聴（10分）					佐藤 清湖	
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感 覚器、神経系：実技、グループワーク				教科書②「頭頸部のアセスマ ント」、「腹部のアセスマ ント」、「乳房と腋窩のアセスマ ント」、「直腸・肛門・生殖器のアセスマ ント」、「脳・神経系のアセスマ ント」、「筋・骨格系のアセスマ ント」、を読む（60分）、動画視聴 （10分）			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳			
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”				教科書①「第3部」を読む（30分）、 動画視聴（10分）			佐々木 重徳			
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”				教科書①「第3部」を読む（30分）、 動画視聴（10分）			佐々木 重徳			
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系： 実技、グループワーク				教科書②「呼吸器系のアセスマ ント」、「循環器系アセスマ ント」を読む（30分）、動画視聴（10分）			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖			
14	心理・社会状態のアセスメント				教科書①「第2部」、参考書、 「フィジカルアセスメント総論」を 読む（30分）			佐藤 清湖			
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク				第1回から第14回までの教科書① ②、参考書および動画視聴内容を復 習する（30分）			佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖			
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、MCメディカ出版 ②『看護がみえる vol.1.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア										
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂										
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 13, 15回） *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート、確認テストで評価し、適宜フィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	
				授業回数		30 回				
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術（採血・検体検査）を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。 									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置（一時的導尿・持続的導尿）」				教科書② 第2部6章を読む（1時間）			竹田 理恵		
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置（浣腸・摘便・ストーマケア）」							竹田 理恵		
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（処置）」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）			竹田 理恵 二口 尚美		
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（患者の観察）」：グループワーク							佐藤 由記子 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、巻法、末梢循環促進ケア」				教科書② 第3部11章を読む（30分）			佐藤 清湖		
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」				教科書② 第3部10章を読む（30分）			佐藤 清湖		
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵		
								佐藤 由記子 佐々木 重徳		
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」				教科書② 第4部12章を読む（1時間）			佐藤 由記子		
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」							佐藤 由記子		
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出する（30分）			佐藤 由記子 二口 尚美		
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」：グループワーク							竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳		
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」				教科書② 第4部13章を読む（1時間）			佐藤 由記子		
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」							佐藤 由記子		
14	与薬の技術 「注射の基礎知識／針刺し防止策」				教科書② 第4部13章を読む（30分）			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク		
17	与薬の技術 「注射の実施法(皮下注射・皮内注射・筋肉内注射)」	教科書② 第4部13章を読む(30分)	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐々木 重徳
19	筋肉内注射の実際(患者の観察)：グループワーク		
20	与薬の技術 「静脈内注射(ワンショット、点滴静脈内注射)」	教科書② 第4部13章を読む(30分)	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐藤 由記子 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 清湖 佐々木 重徳
22	点滴静脈内注射の実際(患者の観察)：グループワーク		
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	教科書② 第4部13章を読む(30分)	佐々木 重徳
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)」	教科書② 第4部14章を読む(30分)	佐々木 重徳
25	静脈血採血の実際：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(30分)	佐々木 重徳 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
26	静脈血採血の実際(検体の取り扱い、患者の観察)：グループワーク		
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査(尿・便・喀痰検査)、生体情報のモニタリング(心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター)」	教科書② 第4部14章を読む(1時間)	佐々木 重徳
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」		
29	状況設定場面に応じた診療援助技術(排泄、酸素療法、与薬、検査等)の実際1：グループワーク、ディスカッション	講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組み提出する(1時間)	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐々木 重徳
30	状況設定場面に応じた診療援助技術(排泄、酸素療法、与薬、検査等)の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション		
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、菊池真紀子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。(第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回) *授業内課題は、技術チェック、レポート、学習カード、確認テスト、等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--